



【発行】林野庁 東北森林管理局

住所：青森県西津軽郡鰺ヶ沢町大字舞戸町字東阿部野 70-82

津軽白神森林生態系保全センター

TEL：0173(72)2931 FAX：0173(72)2932

## 白神山地周辺の森林（もり）と人との共生活動に関する協議会 を開催しました

6月28日（火）、西目屋村中央公民館において、白神山地周辺の森林（もり）と人との共生活動に関する協議会を委員11名、事務局6名、計17名で開催しました。

この協議会は、学識経験者、地方公共団体ボランティア団体等の方たちと、白神山地森林生態系保護地域（世界遺産地域）周辺地域における保全管理、自然再生活動等について情報交換や協議をするもので、平成19年にはじまり、今回で17回目を数えます。



唐澤森林整備部長の挨拶

開催にあたり、東北森林管理局唐澤森林整備部長より挨拶があり、東北森林管理局は委員の方たちをはじめとした地域の皆様に支えられ白神山地の保全及びその周辺地域における森林教育等、様々なことに取り組んできた。本日も忌憚のない意見をいただき、情報を交換しながらお互いの活動を推進していきたいとの話がありました。

会議では議題1として、当センターが実施している植生モニタリング調査及び一般公募による自然再生活動について説明しました。委員から調査の数値をどう評価すべきか、専門家の意見を聞くのも良いのではないかという意見が出されましたが、今後の間伐施業を実行しながら10年くらいのスパンの中で評価をしていきたいと思えます。

議題2として、各団体の自然再生活動について報告がありました。新型コロナウイルス感染症によるイベントの中止、団体構成員の高齢化など、各団体共通の悩みがこの協議会で共有され、せつかくこの協議会があるのだから、単独での活動が困難な場合は各団体協力していくことも検討しなければならないという意見が出されました。



協議会の様子

議題3は、民有林及び国有林におけるマツクイムシ、ナラ枯れ被害について、青森県（西北地域県民局）、津軽森林管理署から報告がありました。今後も被害状況、防除対策についての情報を共有し、推移を注視していきます。

さらに委員の方から、白神山地周辺におけるニホンジカの生息状況に関する質問が出され、令和3年度に当センターが実施した青森側のセンサーカメラによるニホンジカ生息の確認状況について説明しました。

当センターでは、今後も協議会で委員の皆様からいただいた情報・意見を参考とし、また協議会の委員の皆様との協力を得ながら、白神山地とその周辺地域の保全、自然再生活動を推進していきたいと考えております。(赤澤)

## 弘前大学の皆さんを迎えて森林体験学習を開催しました

7月7日(木)、鱒ヶ沢町内矢倉山国有林において、弘前大学人文社会科学部の学生12名、引率の先生3名を迎え、津軽森林管理署、同署鱒ヶ沢森林事務所の協力のもと、森林体験学習を開催しました。

今回の体験学習は、昨年10月に当センターが受け入れた同大学生による聴き取り調査(白神の絆NO.183(令和3年11月26日発行)参照)を踏まえ、話だけではなく、実際に森林や林業の作業を体験したいという要望を受けて実施したものです。初めての大学生を対象とした体験学習に、どのような内容にすべきかと、少し悩みましたが、まずはシンプルに、山を歩き、木に触れて、汗を流す、というコンセプトで実施することとしました。



開会式の様子

前半は人工林の除伐やつる切りの体験です。まずは私たち職員が手本を示し、その後学生たちに実際に作業してもらいました。木を伐った後に上を見上げて、木と木との間にできた隙間に、その作業の意義を実感してもらいました。

後半は測樹体験です。木の太さを測る輪尺と、高さを測るための目印とする測竿、さらには木の高さを測る機械(デンドロメーター、トゥルーパルス)を用いて、スギ(人工林)の材積を測る体験です。学生たちにそれぞれ高さを答えてもらおうと、まちまちな答えが出てきて、この測樹にもそれ相応の年齢が必要であることを実感してもらいました(笑)。

作業の現地までの往復は、森林や植物の説明をしましたが、学生たちはメモを取り、熱心に話を聞いてくれました。この日の体験が少しでも学生の皆さんの森林・林業への関心を深め、また大学に帰ってからの調査・研究の一助になってくれるなら、こんなに嬉しいことはありません。

また、今回の体験学習は弘前大学の学生のためのものでしたが、ぎこちない手つきながら、熱心に話を聞いて作業をしていた学生たちの姿を見て、私たちも貴重な体験をしました。

(赤澤)



輪尺を使った測樹体験